

第2回石川県成長戦略会議
(温もりのある社会・人づくり部会)
議事録

(開催要領)

1. 開催日時：令和5年4月28日（金）15時～17時
2. 場所：石川県地場産業振興センター本館2階 第1研修室
3. 出席委員（五十音順）：

宇田直人	石川県PTA連合会会長
岡橋勇侍	石川県高等学校長協会会長
桑村佐和子	金沢美術工芸大学一般教育等教授
田中弘幸	社会福祉法人石川県身体障害者団体連合会会長
西村依子	石川県人権擁護委員連合会会長
野口弘	石川県市町教育委員会連合会会長
長谷川由香	子育て向上委員会代表
眞鍋知子	金沢大学融合研究域教授
南眞次	社会福祉法人石川県社会福祉協議会 石川県社会福祉法人経営者協議会会長
向孝志	石川県私立中学高等学校協会会長
八重澤美知子	金沢大学名誉教授
安田健二	公益社団法人石川県医師会会長
柳幸枝	婦人団体協議会副会長

(議事次第)

1. 開会
2. 議事
石川県成長戦略（仮称）素案
3. 意見交換
4. 閉会

(説明資料)

- 資料 石川県成長戦略（仮称）素案
- 参考資料1 第2回石川県成長戦略会議の主な意見
- 参考資料2 第2回石川県成長戦略会議議事録
-

1. 開会

2. 議事

(事務局から会議資料に基づいて説明)

【宇田委員】

K P I についてご質問させていただきたいのですが、出ている基準値が最近のものもあれば、数年前の数値があると思います。目標値自体が令和 14 年度、今から 10 年後ということを出されていますが、この 10 年間の期間にこの目標値を、例えば今、令和 5 年だとしたら 5 年後の令和 9 年とか 10 年にその数値について進捗状況がどうかというようなことを検討する場面があるのか。要は、10 年後に目標数値が達成できませんでしたということではよくないのかなと思ひまして。目標数値自体を実際に見返すタイミングというか、今、進捗があまりよくないのでもう少しこ入れしなければいけないだとかいうことを、途中経過でやっていかないといけないのかなと思ひています。

具体的に言いますと、この数値の中でも一番チャレンジだと思ひているのが、合計特殊出生率を 1.38 から 1.82 に上げるというところで、10 年後にこれができているかどうか、今できますとはなかなかどなたも言い切れないと思ひます。打たれる施策の内容やどういう予算をつけるかにもよると思ひますが、実際にこれが達成できていないということを 10 年後に気づいても仕方がないので、何年後かに見返して何か手を打つということをするのかどうかということ、K P I 全般についてお伺ひしたいと思ひてご質問させていただきます。

【山口企画振興部次長】

K P I の関係で、10 年間の計画の間に途中で評価あるいは見直しをするのかどうかというご質問かと思ひます。基本的に R 14 年度を目指しまして計画を立てるわけですがけれども、途中の 5 年後を目途に、一旦、中間評価を全体で行いたいと思ひております。その上で必要な見直しをやろうと考えております。

それから、毎年、議会のほうにも定期的にご報告を申し上げたいと考えておりますので、その点ご了承いただきたいと思ひます。

【岡橋委員】

この会場に来る途中で、交差点で信号待ちしているところ、小学校 1 年生か 2 年生の子たちが黄色い帽子をかぶって歩いていて、春だなど。さらに、適所で先生方が見守っておるんです。さらに 100 メートル進んだら、実は 1 人だけ駄々をこねているのか、ベンチに座り込んで動かない。そこにもちゃんと先生がついています。先生方に支えられているんだということを実感しました。

先生方がちゃんと今のような教育力を維持するためには、次につながる教員志願者の増というところが喫緊の課題かと思ひております。そのために、戦略の 15 ページに教職員の多忙化改善の推進といった素案を組み込んだことに対して非常によいことだと思ひます。

9 ページの G I G A スクール構想の実現というところも、国の施策に合わせた形でとてもよいことだと思ひます。例えば本校でいいますと、実は私、校長もしてござりまして、今日久しぶりに授業を覗いてみました。そしたら、黒板を全く書いていないんです。授業している

のかと思っぴっくりして後ろのほうからのぞくと、生徒一人一人がクロームブックという端末を持っていて、その端末に生徒の解いた答案がそのまま画面に表示されていて、そこで先生が赤色のチェックを入れて添削しているんです。私が高校時代の数十年前を振り返ると、自分が予習してきたノートの答案を黒板に書き、それを先生方が添削するといったようなことなんですが、これなら一々書く手間がなく、授業に集中できるのかなと思いました。

小、中、高、特別支援と様々なGIGAスクール構想に対する施策のいろんなアイデアを今出しているところなので、こういったところも授業力向上、学力向上にもつながりますし、プリントなどを使わずにするわけですから印刷する必要もないので、多忙化改善にもつながるのかなといった意味で、こういった施策に入れることに関しましては賛成、いいことだったと思うという意見です。

【桑村委員】

私は大学で教職課程を担当しております。志願者を減らさないようにという前に、今は免許を取る学生が全国的に見ても大分減ってきてはいるのですけれども、(学生には)教育委員会が必死で多忙化改善をやってくださっているんで、今の状況は絶対に改善されるから頑張ってくださいと言っております。

私は社会教育のほうで呼んでいただいているかなと思うのですが、社会教育は地域づくりの基盤を支えていくという面がありますので、その辺が中心に書かれているかなと思います。それ以外の、直接的には地域づくりに関係なさそうに見える学びも、間接的には必ずつながっていきますので、そういうことを今までどおり支え続けてほしいなと思います。

だんだんコミュニティのつながりが弱くなっているところはありますが、地域の社会教育のために働いてくださっている方たちへの支援も忘れないでいただきたいなと思います。今、学校教育の中で不登校への対応や部活動の課題などがあると思うのですが、それを支えるものとして社会教育は頑張っていかなければいけないのではないかと考えています。

STEAM教育のことが8ページに出てきていますが、具体的にAの部分、アートの部分がどのようにされていくのか、これから期待を持って見守らせていただきたいなと思っております。

【北野教育長】

社会教育、生涯学習といった側面については、引き続きしっかり対応していきたいと思っています。

また、STEAM教育のお話もございました。今年度から金沢二水高校をモデルにして、A以外のところはサイエンスであったり、いわゆる日本的にいう理科系の部分ですけれども、そういうところにまたアートを組み合わせて、教科横断的な学びをどんな形で進めていけばよい形になるのか研究もしながら、しっかりと進めていきたいと思っています。

【田中委員】

私がここにいるのは、障害の関係だと思っています。私自身もいつも思っているんですけれども、ハートもハードもバリアフリーと我々考えています。県では令和元年に、共生社会づくり条例ができて、合理的な配慮とか、ともに暮らすとかいうようなことで進めておるところであります。私自身も途中で障害を持って車椅子になった身なんですけれども、金沢という古い伝統文化を重んじるところでは、なかなか違う人格を持つと住みにくいというか。

金沢の三文豪の一人、室生犀星の歌に「ふるさとは遠きにありて思ふもの」というものがあります。犀星自身はその後に決して住むべきところではないと。それは犀星が私生児として生まれた生い立ちを考えると、小さい頃から虐げられていたと思います。そういう中で東京へ行って歌を歌ったと思うんです。我々としても、「ふるさとは遠きにありて思ふもの」ではなくて、「ふるさとはそこに住んで思ふもの」にしたいと思ってやっています。

【西村委員】

25 ページの一番下に「ひとり親家庭等支援の充実」があります。事前にいただいたものは「充実」までだったのですが、今日拝見したものではありません。離婚前後の親支援が入っていました。弁護士という職業柄この辺りが興味のあるところなので、どういうことをイメージされているのかご教示頂きたいです。

同じような観点で、26 ページの(4)仕事と家庭の調和（ワークライフバランス）のところの最後のほうに二重丸で「男性の家事・育児等への参画の促進」があります。私たち仕事として離婚事件等を多くやっていると、これが結構進んでいる家庭もあります。例えば、金沢弁護士会ですと、小さい子を育てるときに会費免除制度があるんですが、担当委員会で男性会員がそれを申請した場合は、どれくらい家事、育児に参画しているかという細かいチェック表があって、聞き取りをして、それを通った人だけが免除されたりしています。

全国平均に比べると石川県は、この辺りのジェンダー意識が 10%近く低かったりするものですから、ここら辺もどういうことを考えておられるのかなということに関心がありました。

最後に、人権擁護委員として前回も人権教育の話をしましたけれども、戦略 4 の(3)豊かな心と健やかな体を備えたしなやかでたくましい人づくりのところ、①心の教育の充実、②道徳教育の推進、③として、「いじめへの対応」、それに並んで、「人権教育の推進」というのが出ています。

①の心の教育の充実では、「豊かな人間性や社会性を育てる心の教育」とあり、②の道徳教育では「他人を思いやる心」とか「規範意識などを養う道徳教育」とありますけれども、過去の重大な少年非行の事例の分析や少年院等に入る子たちの生い立ち等を見ていると、本人が人として大切にされていない。自分自身の自己肯定感が低い。自分が大切な存在であるから周りから尊重されるということを体験しないままに、人を思いやりなさい、人のことを考えなさい、規則はちゃんと守りなさいと言われても、実際には人は変わらないのではないかと。そういう意味では、生まれながらにして人は全て平等だという観点に立って、人は人として全て価値があるものであり、尊重されるべきものだという教育があった上で、ほかの人を思いやりましょうということになるのではないかなということ、その位置関係が人権に関わる者としては正直気になりました。

【田村少子化対策監室子育て支援課長】

私のほうから、まず 1 つ目、「離婚前後の親支援」ということについて回答させていただきたいと思います。

この表現がなかなか難しくよく分からない部分はあったかと思うんですけれども、従来から私どもはひとり親家庭への支援を行ってきました。ひとり親というのはどうしても貧困に陥りやすい。その要素の一つといたしましては、例えば離婚後に、片方の親御さんからの養育費の支払いが滞ったりするケースがよくあるという話がかねてよりありました。その原因として一つあるのは、養育費をどうするかというようなことを話し合わずに勢いで離婚し

てしまうケースがままあることが分かりました。

そこで、我々のほうで、今年度の新規の事業として、離婚する前段階、既に別居状態に入っていて、これは離婚するかもしれないといった親御さん、特に女性が多いんですけれども、そこに具体的にセミナーみたいなものを実施しまして、離婚するためにはやっておかなければならないことがあるということを知識として知らしめたい、普及させたいということもございまして、こういった事業を実施することを考えております。

また一方、離婚に関する専門家、元家裁の調査官等をやられていてその辺に詳しい方もいらっしゃると思いますので、そういった方のオンラインによる相談事業も実施したいと考えております。

以上2つの事業をもちまして、離婚前後にしっかりとした子供への支援ができる体制も整えていきたいと考えております。

【西村委員】

離婚したいという方に、一般的な教示だけではなくて、例えば市町の窓口等で専門家に具体的に相談したいというときに、弁護士がオンラインで相談するのを県として支援することができないかどうか。

実は日弁連でも、先行事業でやってみると、金沢市のような県庁所在地の方は専門家につながりやすいんですけれども、郡部の方はつながりにくいところがあって。弁護士会としても、オンラインであれば対応を考えやすいのでご検討いただければということ、ひと言申し上げます。

【谷野少子化対策監室子ども政策課長】

家事・育児のお話がありまして、現状やっている施策の具体の中身になるんですけれども、現在、育児・家事のシェアシートということで、未就学児とか小学校低学年の児童を持っている家庭のご夫婦に対しまして、育児に関してご夫婦で話し合いながら一緒に遊ぶこと、お風呂に入ること、寝かしつけなど夫婦それぞれどういう分担でやっているかということウェブでそれぞれ評価して、またその結果を見て話し合うような機会を設けたり、もう一つ、男性の育児休業の促進・取得に向けた取組もやっておりますので、そういった取組を通じて進めていきたいと考えております。

【野口委員】

今日ご提案いただいた素案が入手できたのがつい先日だったということと、朝から様々な仕事があり読み込む時間があまり取れなかったもので、早朝に出勤して読ませていただきました。全部読めなかった部分もあるので感想と、お願いということになります。

まず、戦略4の次世代を担う人材の育成というところ、8ページになります。イノベーションを担う人材の育成とあります。これはとても大事なことだと思っているのですが、そのためにも本県に新しい産業が起きてくるのが大前提になるのではないかと考えています。他の部会との関連の中から新産業が起きることを考えていただければうれしいと思っています。

ちなみに、今、私は宇宙産業を起こす仕事に取り組ませていただいておりますけれども、若い世代の方々が興味を持って学んでおられますし、県内の企業の中でも宇宙の分野に挑戦したいという企業もありますので、ぜひ新産業を念頭に置いて進めていただくとありがたいと

思います。

9ページの確かな学力の育成の中に「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」とあります。これはまさにそのとおりだと思っているのですが、これを進めていくときには、リアルとデジタルの最適な組合せを念頭に置きながら進めていただければより協働的な学びが深まるのではないかなと思っています。ぜひお考えください。

次はお願いです。修正していただけたらと思うのですが、心の教育の充実のところに「豊かな心を育む読書活動の充実」という文言があります。私は豊かな心を育むのは読書だけではないと思っています。私はある新聞会社の感想文コンクールの作品を毎年読ませていただいているのですが、ここは「豊かな心を育む良書や新聞を読む活動の充実」かなと思います。新聞も子供たちの道徳観とかいじめへの対応、人権教育に大きくつながってまいりますので、ここはもし修正ができれば、ぜひお願いしたいと思いました。

不登校の児童生徒の社会的自立の部分ですが、引きこもりでなかなか家から出られないお子さんがいます。ここで大事だと思っているのは、そうしたお子さんを無理やり引き出すことは大変難しいので、最先端技術、例えばメタバースみたいなものを活用しながら、仮想空間の中で子供たちが一歩社会に出るという動きをつくっていくのもいいのかなと感じていました。

21ページです。県立図書館の運営です。大変立派な図書館ができました。小立野台は大変にぎわっておりまして、大渋滞も時々起こっているようであります。これは本当に立派ない図書館を建てられたと思っています、金沢市も大変勉強させていただきました。

この県立図書館についてですが、これから高齢化が進みます。また、県内の遠隔地から、来たいなと思ってもなかなか来られない方もおります。ぜひデジタルというものを活用していただきながら、デジタル図書の充実とか、デジタルを使った図書館の発信ということにも力を入れていただくとうれしいです。

【北野教育長】

デジタルの時代でありますけれども、授業は全てデジタルでずっと端末を見ながらということではございませんし、教師の発話であったり、先ほど板書の話がありましたけれども、板書であったり、実際の実験であったり、いろんなことを組み合わせながら最適な形でやっていきたいと思っていますので、また具体的にいろいろ検討させていただきたいと思っています。

図書館のお話ありましたけれども、図書館は担当の者が来ておりませんが、そこは様々な形でまた皆さんのいろんな知的な欲求を満たせるような形を考えていくということでまた申し伝えておきたいと思っています。

【長谷川委員】

これを拝見させていただいて、子育て支援にすごく力を入れてくださっているのが伝わってきて、非常にありがたく感じました。

ここ最近、国のほうでも子育て支援を最重要課題のように力を入れていることが分かるので、県としてもこの素案に基づいて進めてほしいと思いますし、東京や大阪から来られた方たちに話を聞くと、石川県の子育てのしやすさというのをすごく強調されるので、そういったことをもっと効果的にPRしていったらいいのではないかなと思います。保育、遊び場、

環境、相談機関もそうですし、PRできるものはたくさんあるのではないかと感じました。

これは前回は申し上げたことなんですけれども、石川県は大学が多くて若者の数が非常に多いにもかかわらず、特に若い女性が流出してしまうというのは本当に大きな問題だと思っています。例えば10人が移住してきても50人が出ていってしまったら元も子もない話なので、特に意思決定権のあるポストに女性が就いていることを実績として積み上げた上で、もっとPRして行ってほしいなと思います。

例えば、44ページのKPIのところ、県の審議会委員の女性比率が現在43.6%という数字に、女性の方たちの比率がこんなに高いのだと驚きました。実際、活躍されている女性たちがいても、例えばそれが県のホームページなど決まった場所で紹介されていても何となくヒットしなかったりすることがあると思うんです。若い人たちにちらっと話を聞いたとき、新聞のニュースなんかで、大事な物事を決めるときに男性しかいない写真を日常的に目にすることによって、なかなかこの場所においても女性としてやりがいのある仕事に就けないのではないかと日常的に刷り込まれていってしまうと聞いたので、そういったところも配慮というか考えながら広報していく必要があるのではないかと感じます。

さっきの家事のことですけれども、今年3月の国際女性デーのときに都道府県別ジェンダーギャップ指数が出されました。共働きの家事・育児時間の全国調査で、石川県の男女差が最大だったらしいです。全国最下位というとても不名誉なランキングが出ていまして、ここには本当に力を入れて行ってほしいなと思いますし、先ほど未就学児を持つ男性に家事などのアドバイスをするとおっしゃっていましたが、むしろ40代、50代の上世代の意識を変えていくような、何かもう一歩進んだところを考えていただけたらなと思います。

生涯を通じた健康づくりのところ、がんとか糖尿病も挙げられていましたけれども、働き続ける女性が増えてきたことで、生理や不妊治療、更年期といった問題によって辞めざるを得ない、働く女性が実際結構多いというお話を聞きまして、経済的損失が大きいらしいので、職場での理解の促進、働きかけも進めていただけたらなと思います。

【真鍋委員】

今日、たくさんの方の戦略に紐づいた施策について伺ったんですけれども、全体を通して、これは多くのボランティアが必要だなと思いました。例えば、部活動の地域移行もそうですし、子ども食堂、学習支援、居場所づくり、登下校の見守り、高齢者の見守りもそうです。地域包括ケアシステムにもボランティアが必要。傾聴ボランティア、動物愛護にもボランティアが必要ということで、本当に数多くのボランティアがそれぞれの施策で必要だということになるかと思っています。

しかし、ボランティアというものは育成しなくてもそこに既にあるもののようにして書かれているようにも見えます。人づくり部会ですので、それぞれの施策に必要なボランティアをそれぞれ育成するのにはばらばらに取り組むようにも見えるんですけれども、そうではなくて、県全体としてボランティアやNPOといった団体の育成を大きなところで掲げていただいたほうがいいのではないかと思います。県全体のソーシャルキャピタルを底上げすることが、目指している幸福度日本一につながるように思います。

戦略の中で全体として、どこかでしっかり県民ボランティアやNPOを育成していくことを目標に掲げていただいて、それぞれの活動に積極的に県民が参加するような土壌をつくっていく、気運を盛り上げていくというのをどこかに入れていただければいいかなと思いますし

た。

それから、K P I が少な過ぎるのではないかと思いました。K P I の目標達成を通じて県民の幸福度の最大化を目指すとおっしゃっているので、もう少し積極的にK P I を掲げていてもいいのではないかと思いました。

これは野口先生がおっしゃったのと非常に近いのですけれども、D X が横串だと言っている割にはあまりD X が見えてこない。不登校児童にI C T を活用した対応ですとか、図書館のデジタルもそうですけれども、例えば石川県民大学校なんかはK P I に書いていますけれども、もともと定員があったりするものです。これを県内、県外でも、どこに住んでいてもオンラインで見られるようにすれば、もっと高い数字の参加者、修了生の目標値を持てるかもしれませんし、せつかく横串とおっしゃっているのですから、それぞれの施策の中でももう少しD X に取り組めるところを探していただければと思います。

【南委員】

29 ページの介護・福祉サービスを支える人材の確保・質の向上ということで、早くから取り組んでいただいて、何となく目標を達成していける雰囲気がございましたが、聞いたところ、やっぱりコロナの関係で相当不足があって、なかなか達成できないのではないかと。資料のK P I の中で確保する介護職員数が2万3,000人という目標になっていますけれども、ここを何とか達成してほしいなという思いがございます。

向先生とお話ししていたら、金城大学も養成校ということでございますが、介護を目指す人がまず不足しているということでございまして、今日は教育者の方がたくさんお集まりなので、少しでも介護を目指して学んでいく人を増やしていただければありがたいなと思っています。本当に小さな、介護だけの話みたいなんですけれども、これがないとなかなか。

2 日前にも合同入職式で、皆さん、社会貢献する仕事なんですよとお話しはしたのですが、なかなかそれだけでは人は集まらないということでありまして、一生懸命地域の仕事をやっていくとなかなか解決していかないの、ボランティアなのかとか、疲れたみたいな職員さんはどうしても出てくるので、その辺ももう少し支えがあればいいかなとはいつも思っています。前回の戦略会議では地域包括支援センターなんかをもう少し支える仕組みがあったらありがたいなということを発表させていただきました。

【向委員】

私のほうは私立学校ということで、少子化によって生徒数の確保が非常に難しくなってきました。最近はそのみではなく、教員の確保がまた非常に難しくなっております。公立学校もそうなのだろうとは思いますが、10年、20年前ぐらいまでは結構教員の希望者がいまして、募集をすればかなり集まってきて、その中から面接あるいは試験等を通して優秀な人材を確保できたのですが、最近には本当に希望者自体がいなくて、数をそろえるというのは乱暴な言い方も分かりませんが、本当になり手がいないのです。

特にここ数年、他の学校もそうですけれども、国語の教科が非常にいないというのがあります。数学、英語、一時は理科も難しかったのですが最近はどうもなくて、意外と希望者がいます。委員会にお願いしたこともあるのですが、国語はなかなかいないのが現状です。

多忙化だけがその原因ではないとは思いますが、いい教育をするためにはいい教員、人材の確保が非常に重要なので、ここはざっと目を通させていただきましたけれども、研修とか養成、教員のレベルアップのことは結構たくさん書いてあるんですが、一番最初の

出発点の、どうやっていい人材を確保するのか。ここがうまくいかないと、幾ら研修や養成に力を入れても限界があるのではないかと思うんです。教員を目指す生徒をもっともっと増やしていただくと。石川県には大学がたくさんありますので、教員免許をもっともっと取っていただいて、教員希望者をできるだけたくさん増やしていただく努力も、県を挙げて、教員の多忙化改善だけではなくて、それも踏まえてどうやって教員希望者を増やしていくのか、その辺もぜひ考えていただければなと思っております。

これは公立学校だけではなくて私学もそうです。昔でしたら地元の石川県だけで結構足りておったのですが、今は全国から募集しないとなかなか集まってこないのが現状としてはあります。

【安田委員】

教育長とはコロナ対策で、健康福祉部長でおられたときに一緒に仕事をしています、同志というイメージでいます。

医療に関しては4点ほどありまして、まず、石川県の医療の1丁目1番地は能登北部です。医師は地域枠、自治医大の先生方でそろそろ充足しているんですけども、実は看護師、薬剤師、薬局、歯科医師が充足していない。能登北部の医療過疎は医師だけではないということなので、この点に関しては県もいろいろと考えておられます。

医療というと病院の診療だけを考えますが、学校医にしる産業医にしる、診療以外の地域医療はたくさんありまして、開業の先生方が担当していた仕事がだんだんできなくなっている。そういうことも考えると、病院先生方が外へ出て地域医療を担うことも考えなくてはいけないのではないかと思っております。

2番目としては、介護職員がなかなか定着しないという問題点があります。外国の方々に介護を担ってもらおうということは前からあったのですが、いろんなブローカーが出てきて社会的な問題になっております。

介護職員は定着ができないということと、これもやっぱり地域差がありまして、能登北部はもう既に65歳以上のピークは終わったわけで、地域差によって介護・高齢者施設等の淘汰がそろそろ始まる時代がやってくるということです。

3つ目は、医学部も2004年に新臨床研修医制度ができました。それまでは金沢大学なり金沢医科大学の医学部が医師を育てるという任務を果たしていたのですが、新臨床研修医制度が始まってから、病院でやってもいいということになりました。当初は北陸の医療をサポートするのは石川、金沢であるということで、それほど都会へは行かないのではないかと楽観視しておりました。しかしながら、実際に蓋を開けますと、東京に行かれる卒後の医師もたくさんおられまして、大体そういう医師は家庭を持つ年齢でもありますので、向こうで家庭を持つとなかなか戻ってこないという、新臨床研修医制度の弊害がずっと続いているということで、医師の偏在や不足も新臨床研修医制度が非常に影響を与えていると思います。

4番目に言いたいのは、DX、DXと皆さん言いますが、実は我々の世界ではDXにはあまり期待しておりません。というのは、これまで国から2回、都道府県にネットワークをつくるために何兆円というお金がばらまかれたんです。それはほとんどの都道府県でクラッシュしています。それはなぜかという、助成金目当てにベンダーや事業者が高い値で張りつくわけです。入ってくる業者も限られています。そうすると、更新のときに何千万というお金がかかるわけで、コストパフォーマンスが全く合わないということで、ほとんどの都道府県でクラッシュしています。こういう状況が2回続いております。

石川県は、石川診療情報共有ネットワークがありますが、金沢市医師会でもそうなんですけれども、ヘビーユーザーとそうではないユーザーに二極化しておりまして、あまり使わないのはご高齢の先生かと思うと若手の先生なんです。若手のビジョン委員会をやっているんですけれども、期待しているのは2割も満たしていません。というのは、病院の先生とか在宅とかいろんな先生方は、電話一本、またいろんなところで会合がありますので、紹介したあの人どうなってるとか、在宅医療の先生も施設のほうからラインワークスのアプリを持たせていまして、これを使ってくださいということで、なかなかDXが浸透していかない。

石川県は残ったほうなんですけれども、クラッシュした都道府県の医師会長からは、我々はDXがないからといって、決して石川県の医療に劣るとは思っていないとおっしゃっていました。実は、DXといってもいろんな不都合があります。例えば、救急の患者さんをマイナカードで照らし合わせて、レセプトベースで診療録を見ます。今、それは実証作業が行われているんですけれども、それで一番困っているのは搬送時間が倍になったことです。照らし合わせている時間がかかり過ぎる。救急に関しては、搬送時間が物を言うので、みんなが思うほどDXが医療に寄与しているわけではありません。

我々は公定価格でやっておりますので、ほかの事業者とは違ってDXにかかる費用を患者さんに負担はさせられないのです。莫大なコストがかかる中で、国がDXを進めない限り、なかなか我々としてはDXに乗れないし、決してDXに乗れなかったからといって医療が劣っているわけではないと断言されておる都道府県医師会の先生方が圧倒的にいるということで、医療DXというのはコストの構造からしてなかなか進まないようにはなっています。

これを国が進めることによって、初めて進んでいくわけで、一都道府県でどんどんできるかということ、そういうわけではないということを皆様には認識していただきたいと思っております。

【柳委員】

今いろいろ拝見しまして、10年後の出生率も1.82を目指すとか、子供たちに対する施策もすばらしいと思っております。

ただ、私が最近読んだ新聞記事で、このまま行くと2070年に日本の人口は8,700万人、3割減になる。出生数は2059年には50万人割れ。人口減により縮む国力、生産性の向上が急務であることと出ていました。4割は高齢者、1割は外国人。生涯未婚率は17.8%だということです。

その記事の中で私が一番そうなんだと思ったことは、今、出生率を上げるために、国も県も全てのところで女性は子供を産んでくれみたいな施策がすごいんですけれども、女性でも産みたくても産めない人とか、産まないことを選択する女性もいると書いてあったんです。私、それを読んだときに、ああ、それもそうだなと思ったんです。産まないことを選べるようにしてほしいし、それも認めてほしいと書いてあったんです。法律婚、シングル婚、事実婚、同性婚などいろんな形の家族があって、多様な在り方を国が認めてほしいと書いてあったんです。そのことに私は本当にびっくりというか、そうだなと思ったので、本当にちょっと関係ないんですけれども、お話をさせていただきました。

【八重澤座長】

私は3点ほど申し上げたいことがあります。

膨大な資料で、どれもとても反論できないぐらいきちっときれいに書かれてある。皆さん

の力をまざまざと見せつけられているということで、大変にこれはありがたい資料だと思いつつも、非常に古くて新しい問題もあれば、変わりやすいところの問題もあれば、変わりにくいところの問題もあるし、あるいは近い目標ですぐにできそうなものもあれば、これは多分、遠くを目指してやるべきものなのだろうというものもありますので、実施に当たりましては弾力的に運用していただきたいと思います。それがまず第1点目です。

第2点目は、例えば私たちはコロナ禍になりまして、それまでとはまた違うような生活を強いられてきたわけです。コロナ禍にあったという一つの世の中の動き、日本を取り巻く動き、あるいは世界全体の動きで、この中でも書き込まれていますが、例えば金沢大学は来年から理系の女子枠35名を設けます。これは別に金沢大学だけではなくて、既に東京工業大学とか、お隣の富山大学、名古屋大学は女子枠を既に設けております。そうしたことが、意識、行動、あるいは私たちの世の中の仕組みにどのような影響があるのか。それと連動した形でこの資料の中での関係するところを見るのが大事かと思えます。

3点目としましては、この計画の見直しとか追加は途中経過でもおやりになるのだろうかということもちょっと気になった次第です。

【山口企画振興部次長】

先生のほうから3点ほどございました。

一番初めに、様々なものが入っている。古くて新しい問題であるとか、そういったものも含めていろいろありますということで、柔軟に取り組んでいってほしいということでもございました。当然、今回、お示したものにつきましては、熟度の高いものから低いものまで、県のほうでも今後やっていくのだという思いで入れたようなものもございまして、いろいろあると思います。

いつも予算はつきまとうんですけれども、予算の許す限り積極的に取り組んでまいりたいと思うものを並べたと。10年後を目指してそういった意気込みで頑張っていきたいと思うようなものが今入っているという状況でございます。

それと、金大の理系の女子枠とかについてはちょっとさすがに今コメントはなかなかしにくいんですけれども、今のこの計画の見直しの関係につきましては、基本的にできました後、5年後を目途に、一旦は中間見直しあるいは中間評価をやるつもりですし、また、県の実際の仕事の進め方といいますか、毎年予算をつくります。当然、補正もございましてけれども、今の成長戦略だけでなく、ほかの事業についても、必要であれば途中で予算の中に入れることもありますし、また成長戦略そのものについても、年に一回、議会のほうにも報告するような格好にもなろうかと思えますので、必要であれば見直しということもないのではないのかなと思っています。

ただ、基本的に見直しをかけるのは、これについては出来上がった後5年後になるのかなと思いますけれども、そのほか、その時々で必要なものについては毎年の予算などで反映させていく形になろうかと思っております。

4. 閉会

以上